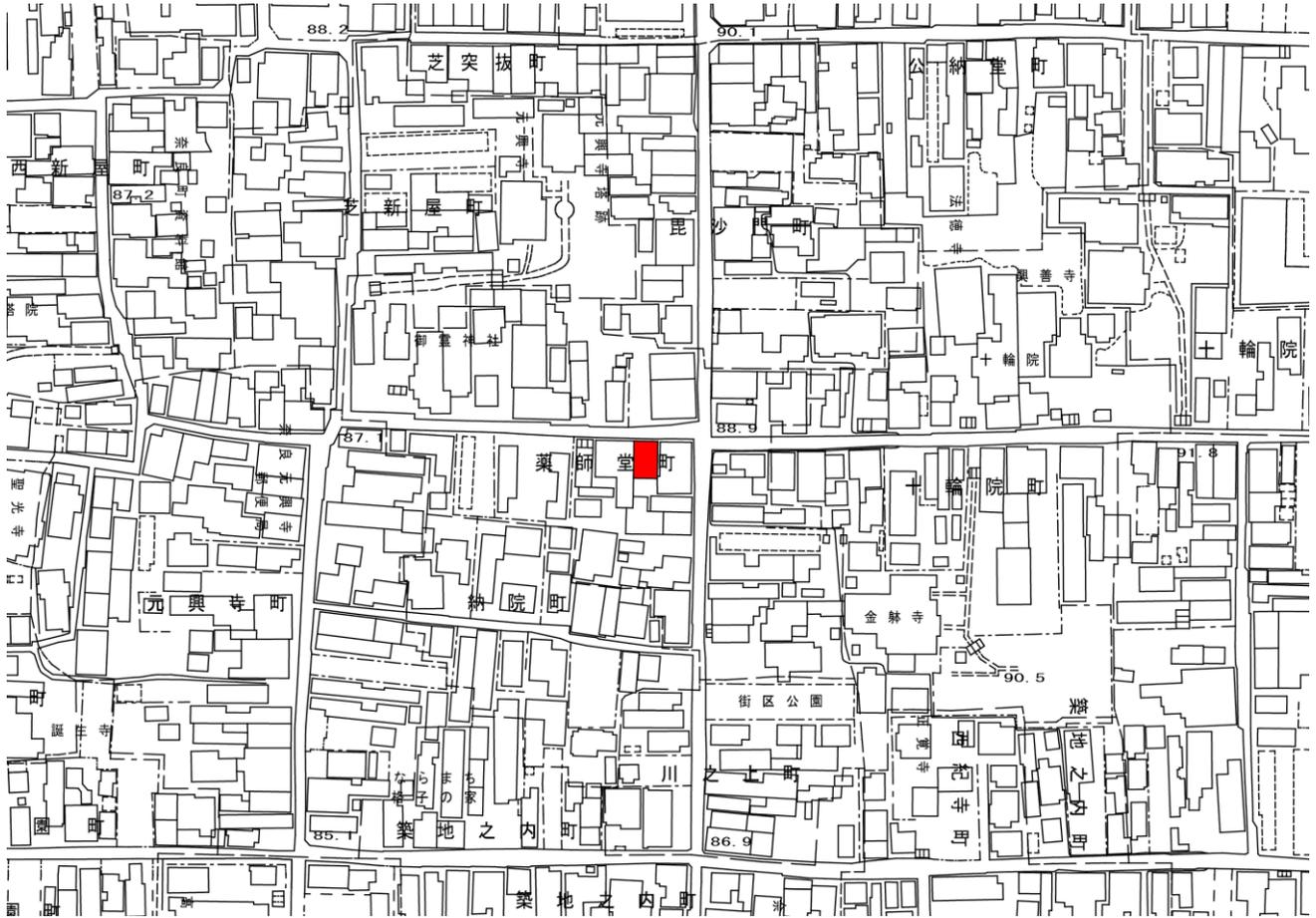


歴史的風致形成建造物 指定台帳

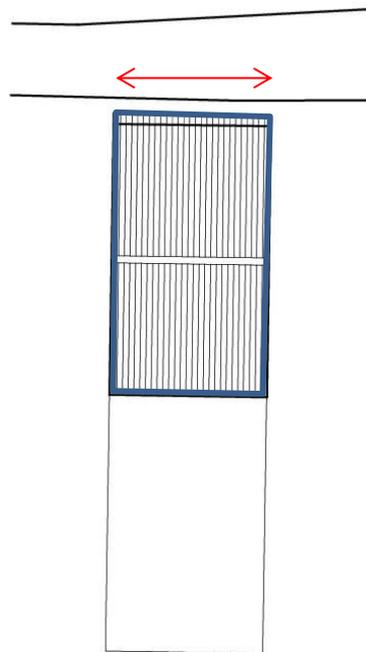
指定番号	26	名称	吉村家住宅	
指定年月日	R2. 11. 16	所在地(指定地)	奈良市薬師堂町 31 番地 1	
指定建造物	主屋	建築年代・概要	明治頃	木造つし二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>薬師堂町は奈良町の南部、元興寺塔跡南側に位置する。四辻南西に会所として使用された薬師堂があったと伝わるが、建物は現存せず、仏像は大正年間に徳融寺に移された。吉村家は、家伝や明治32年(1899)の『奈良繁昌記』から砂糖商であったことがわかる。</p> <p>当地は薬師堂のあった場所の西隣で、明治28年(1895)に吉村家が取得した。ここを本宅とした様子はなく、用途は不明である。戦後は貸家となっていたようである。主屋の後方には便所と離れがあったが、令和元年に撤去された。</p> <p>建築年代は判然としない。建物登記簿によると、昭和7年(1932)に取り壊しによる抹消と新たな登記がなされているが、主屋が竹野地である点からするともっと古いようにも思われるため、現時点では、とりあえず明治頃の建築とみておく。</p> <p>平成15年(2003)には、町家の活用等を通じたまちづくりに取り組むNPO法人さんが俵座の活動拠点として改修され、平成31年まで使用された。</p>			
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>主屋は東西道路に北面して建つ町家である。間口3間、奥行5間半、木造一部2階建、切妻造、棧瓦葺、平入で、正面に庇が付く。外観はつし2階の形式で、1階に格子、つしに虫籠窓を構え、袖卯建を設ける。平成15年の改修の際、正面外観は概ね旧状が維持されたが、内部は大きく改修されている。</p> <p>平成15年改修以前は、1階は、東側1間を通り土間、中央西寄り1間半を1列3室の居室部、西端半間を「倉庫」とし、背面に奥行1間の下屋が付いていた。「倉庫」は、元は前面道路から敷地奥に抜ける通路であったかもしれない。こうした平面構成やそれに対応する1階表構えは、昭和中期以降は降らないとみられるが、当初からのものかどうかは不明である。なお、当初は建物中ほどに西隣敷地への出入口があった可能性がある。2階は、当初は正面側1間半をつしとするのみであったとみられるが、後世その後方も一部を部屋としていた。平成15年の改修で、1階内部の間仕切りや内装、背面の下屋が撤去された。2階の後設の部屋も撤去され、つし後方1間半に新たに部屋が作られた。背面側2間は小屋組を見せる吹抜けとなり、丸太の垂木や竹野地が残されている。</p> <p>改修履歴)平成15年 屋根葺替、外壁塗替、内部改修(間仕切りや内装を撤去) 令和2年 木部補修、格子取替、漆喰塗替</p>			
活用	貸店舗として活用予定			
価値	格子や虫籠窓をもつ伝統的なつし2階形式の町家の外観をよく伝えており、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持向上に寄与する。			



歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図



0 5m

配置図

- 該当建造物
- ↔ 公開範囲